博士論文（要約）

論文題目　『色葉字類抄』の研究

氏　　名　　藤本　灯

目次

第一章　目的と方法
　第一節　本研究の目的
　第二節　先行研究のまとめ
　第三節　本研究の方法

第二章　『色葉字類抄』収録語彙の性格（一）
　第一節　先行研究
　第二節　畳字部語彙の性格―イ篇語彙の性格―
　　第一項　目的と方法
　　第二項　用例調査結果
　　第三項　考察

第三章　『色葉字類抄』収録語彙の性格（二）
　第一節　畳字部語彙の性格―訓読の語の性格―
　　第一項　目的と方法
　　第二項　訓読の語の概観―体裁の面より―
　　第三項　訓読の語の概観―異本との比較より―
　　第四項　訓読の語の概観―『色葉字類抄』内での重複掲出より―
　　第五項　用例調査結果
　　第六項　品詞別分類
　　第七項　考察
　　第八項　今後の課題
　第二節　畳字部語彙の性格―長畳字の性格―
　　第一項　目的
　　第二項　長畳字一覧
　　第三項　用例調査結果
　　第四項　考察
　第三節　『色葉字類抄』収録語彙の性格

第四章　『色葉字類抄』と他文献との関連
　第一節　先行研究
　第二節　他文献との関連
　　第一項　『色葉字類抄』に示された先行国書の検討―『和名類聚抄』の影響を中心に―
　　第二項　『色葉字類抄』と『和名類聚抄』の関係―『式』注記を通して―

第三項　重点部語彙の前後
第四項　名字部語彙の前後
第三節　『色葉字類抄』と先後辞書

第五章　国語資料としての『色葉字類抄』
第一節　先行研究
第二節　字音から見た『色葉字類抄』―仏法部語彙を中心に―
第一項　仏法部語彙の概観
第二項　仏法部語彙の音注
第三節　仏法部語彙から見た『色葉字類抄』―用例を中心に―
第一項　仏法部語彙とは
第二項　用例調査結果
第四節　『色葉字類抄』の価値

第六章　字類抄諸伝本
第一節　伝本調査の意義
第二節　『国書総目録』記載の『色葉字類抄』
第三節　書誌調査結果
第四節　結果のまとめと今後の課題

終章　結論
第一節　本論のまとめ
第二節　結論
第三節　今後の課題

色葉字類抄　影印・索引目録
色葉字類抄研究文献
構成論文一覧

本文

博士論文の全体を、学位取得後五年以内に刊行予定であり、また翻字・画像掲載の許可が得られない箇所があるため、非公開とする。

参考文献一覧

本文に用いた参考文献／引用文献は、本文中、項末、節末等に示したため、省略する。

【色葉字類抄研究文献（一覧）】

・以下に、「いろは字類抄」の関連論文を載せる。

・掲載は年代順とする。

・項目は、発行年月、著者、論文名（著書名）、誌名巻号（出版社）の順に示す。なお、解題等、発行年月より以前に書かれた場合でも、それを含む著作物の発行年月を示した。

1897.11 木村正辞 日本古代字書の説（東京学士会院雑誌 19-10）

1897.12 小中村清矩 わが国の辞書（『陽春廬雑考』）

1902.04 赤堀又次郎 いろはじるゐせう（『国語学書目解題』）

1905.07 黒川春村 項目：伊呂波字類抄（『碩鼠漫筆』／吉川弘文館）

1909.09 藤岡作太郎 松雲公蒐集古書画国書類（『松雲公小伝』）

1916.03 上田萬年・橋本進吉 （第五章）我が国の辞書と節用集（『古本節用集の研究』）

1920.05 山田孝雄 ［解題］（正宗敦夫／『伊呂波字類抄』）

1920.05 正宗敦夫 ［後書］（正宗敦夫／『伊呂波字類抄』）

1926.06 無署名 色葉字類抄解説（『色葉字類抄』／前田家育徳財団）

1927.03 幸田成友 ［書評］尊経閣本色葉字類抄 二冊（史学 6-1）

1928.02 岡井慎吾 前田家本色葉字類抄を見て（一）（国語国文の研究 17）

1928.04 岡井慎吾 前田家本色葉字類抄を見て（二）（国語国文の研究 19）

1928.07 山田孝雄 黒川真前氏蔵色葉字類抄解説（『色葉字類抄 三巻本』／古典保存会）

1928.09 山田孝雄 『色葉字類抄攷略』（西東書房）

1928.12 山田孝雄 伊呂波字類抄解題（『伊呂波字類抄 第一』／日本古典全集刊行会）

1928.12 山田孝雄 成簀堂の秘籍を覧る（書物の趣味 3）

1930.07 正宗敦夫 伊呂波字類抄の奥に（『伊呂波字類抄 第十』／日本古典全集刊行会）

1932.01 山田孝雄 徳富猪一郎氏蔵節用文字解説（『節用文字』／古典保存会）

1932.06 亀田次郎 伊呂波字類抄（『日本文学大辞典 第一巻』／新潮社）

1933.08 亀田次郎 伊呂波字類抄（『国語科学講座 第三巻 国語書目解題』／明治書院）

1934.09 岡井慎吾 五〇 伊呂波字類抄 附世俗字類抄 節用文字
（『日本漢字学史』／明治書院）

1935.05 山田孝雄 四 歌学の興起と国語字書の出現（『国語学史要』／岩波書店）

1936.07 河村正夫 伊呂波字類抄の成立に就いて（国学 4）

1936.11 和田英松 世俗字類抄 四巻（『本朝書籍目録考證』／明治書院）

1939.10 重松信弘 二 色葉字類抄（『国語学史概説』／東京武蔵野書院）

1940.12 時枝誠記 字書の編纂（『国語学史』／岩波書店）

1941.04 岡田希雄 二巻本世俗字類抄攷―附・高麗国数詞の一資料〔辞書号〕―
（日本文化 19）
1943.06 川瀬一馬 続群書類従の編纂（『日本書誌学之研究』／大日本雄辯会講談社）
1943.07 山田孝雄 第五章　歌学の興起と国語字書の出現（『国語学史』／寶文館）
1949.07 石野つる子 節用文字の位置―色葉字類抄及び世俗字類抄との比較より見たる―
（国語と国文学 26-7）
1950.12 大野晋 仮名遣の起源について（国語と国文学 27-12）
1952.01 佐藤喜代治 色葉字類抄考証第一（文化 16-1（東北大学文学会））
1952.10 佐藤喜代治 色葉字類抄考証第二（文芸研究 11（日本文芸研究会））
1953. 藤田経世 『校刊美術史料　寺院篇上』
1953.10 築島裕 〔国語学入門講座〕古辞書入門（国語学 13・14）
1953.12 佐藤喜代治 色葉字類抄考證（第三）（東北大学文学部研究年報 4）
1954.06 齋木一馬 国語史料としての古記録の研究―記録語の例解―（国学院雑誌 55-2）
1955.04 山田俊雄 色葉字類抄畳字門の訓読の語の性質―古辞書研究の意義にふれて―
（成城文芸 3）
1955.08 山田忠雄 色葉字類抄　伊呂波字類抄　世俗字類抄（『国語学辞典』／東京堂）
1955.08 正宗敦夫 伊呂波字類抄の合本再販に就て
（『伊呂波字類抄　第二巻』／風間書房）
1955.11 川瀬一馬 第三十節　色葉字類抄　附、十巻本伊呂波字類抄（附記）日本事始
第三十一節　世俗字類抄（『古辞書の研究』／大日本雄辯会講談社）
1957.11 青木孝 色葉字類抄「辞字」考（青山学院女子短期大学紀要 8）
1957.12 青木孝 ［発表要旨］色葉字類抄の「辞字」について（国語学 31）
1957.12 木下正俊 『伊呂波字類抄国語索引』（私家版）
1958.05 長島豊太郎 『古字書索引　上』（日本古典全集刊行会）
1958.06 相坂一成 色葉字類抄の一語彙群（国語学 33）
1959.04 櫻井茂治 三巻本「色葉字類抄」所載のアクセント
―形容詞・サ変動詞について―（国学院雑誌 60-4）
1959.09 櫻井茂治 漢語アクセントの国語化―主として「出合」以前について―
（国学院雑誌 60-9）
1959.10 長島豊太郎 『古字書索引　下』（日本古典全集刊行会）
1959.12 北原保雄 ［発表要旨］三巻本〝色葉字類抄〟所載のアクセントについて
（国語学 39）
1960.03 山田俊雄 色葉字類抄に見える漢字の字体・用法の注記についての研究（一）
（成城文芸 21）
1960.12 山田俊雄 色葉字類抄に見える漢字の字体・用法の注記についての研究（二）
（成城文芸 24）

1961.02 青木孝 八　辞書・索引作成の歴史　いろは（色葉・伊呂波）字類抄
（『国語国文学研究史大成 15　国語学』／三省堂）
1961.03 山田俊雄 三巻本色葉字類抄の中の漢字音の清濁一、二について（成城文芸 25）
1962.10 吉田金彦 高山寺蔵「書札礼」について（愛媛大学紀要人文科学 8-1）
1963.02 鈴木真喜男 三巻本色葉字類抄の漢字音標記（一）―直音音注について―
（文芸と思想 24（福岡女子大学文学部））
1963.05 島田友啓 『節用文字仮名索引』（古字書索引叢刊・私家版）
1963.07 山田俊雄 色葉字類抄畳字門の語の注「一詞」の意義
（『〔山田孝雄追憶〕史学・語学論集』／寶文館）
1963.10 山田俊雄 色葉字類抄畳字門の漢語とその用字―その一・字音語―（成城文芸 34）
1963.10 山田巌・広浜文雄 『色葉字類抄』の索引作成（国立国語研究所年報 14）
1963.11　項目：色葉字類抄（『国書総目録　第一巻』／岩波書店）
1963.11 青木孝 色葉字類抄畳字門語彙の出入について―三巻本と十巻本との比較―
（青山学院女子短期大学紀要 17）
1963.12 島田友啓 『節用文字漢字索引』（古字書索引叢刊・私家版）
1964.05 築島裕 仮名遣いの歴史　辞書の沿革（『国語学』／東京大学出版会）
1964.06 中田祝夫・峰岸明 索引編（『色葉字類抄研究並びに索引　本文・索引編』
／風間書房）
1964.09 山田俊雄 高山寺本古往来に見える漢語（成城文芸 37）
1964.10 峰岸明 前田本色葉字類抄と和名類聚抄との関係について（国語と国文学 41-10）
1964.10 福永静哉 神宮文庫蔵本「色葉字類抄」管見―声点表記を中心に―
（女子大国文 35（京都女子大学国文学会））
1964.12 岩淵匡 平安時代における辞書の性格―漢字辞書と歌語辞書―
（早稲田大学教育学部学術研究 13）
1965.03 築島裕 ［書評］中田祝夫・峰岸明編
『色葉字類抄　研究並びに索引　本文索引編』（国語学 60）
1965.05 山田俊雄 色葉字類抄畳字門の漢語とその用字―その二、訓読の語―
（成城文芸 39）
1965.06 蔵中進 色葉字類抄と遊仙窟（神戸外大論叢 16-1）
1965.11 峰岸明 三巻本『色葉字類抄』に見える「俗」注記の意義について
（文学論藻 32（東洋大学国語国文学会））
1966.02 奥村三雄 漢語アクセント小考―三巻本色葉字類抄を中心として―
（訓点語と訓点資料 32）
1966.03 鈴木真喜男 二巻本色葉字類抄における字音注の所在、および、直音音注
（文芸と思想 28（福岡女子大学文学部））
1966.05 島田友啓 『色葉字類抄漢字索引（一）［一、二画］』（古字書索引叢刊・私家版）

1966.05 小林芳規 漢籍における声点附和訓の性格（国語学 68）
1966.07 こまつひでお 声点の分布とその機能（１）
—前田家蔵三巻本『色葉字類抄』における差声訓の分布の分析—（国語国文 35-7）
1966.12 峰岸明 平安時代の助数詞に関する一考察（一）（東洋大学紀要（文学部篇）20）
1966.12 島田友啓 『色葉字類抄漢字索引（二）［三画］』（古字書索引叢刊・私家版）
1967.02 吉田金彦 詩苑韻集の部類立てと色葉字類抄（『本邦辞書史論叢』／三省堂）
1967.02 若杉哲男 世俗字類抄・節用文字から色葉字類抄へ
（『本邦辞書史論叢』／三省堂）
1967.02 鈴木真喜男 永禄八年書写　二巻本色葉字類抄について
（『本邦辞書史論叢』／三省堂）
1967.02 山田忠雄 節用集と色葉字類抄（『本邦辞書史論叢』／三省堂）
1967.03 築島裕 ［新刊紹介］島田友啓編「古字書索引叢刊」（既刊八冊）（国語学 68）
1967.06 こまつひでお 三巻本『色葉字類抄』における「ヲ」「オ」の分布とその分析
（国語学 69）
1967.07 島田友啓 『色葉字類抄漢字索引（三）［四画（上）］』
（古字書索引叢刊・私家版）
1967.09 黒沢弘光 前田家本色葉字類抄畳字門の字音声点—清濁表示よりの考察—
（国文学　言語と文芸 54）
1967.11　項目：世俗字類抄　節用文字（『国書総目録　第五巻』／岩波書店）
1967.12 峰岸明 平安時代の助数詞に関する一考察（二）（東洋大学紀要（文学部篇）21）
1968.02 島田友啓 『色葉字類抄漢字索引（四）［四画（下）］』
（古字書索引叢刊・私家版）
1968.03 田中重久 滋賀県の出土瓦・心礎と仏像彫刻
—付十巻本「伊呂波字類抄」の寺名索引—（古代学 14-3・4 ）
1968.07 島田友啓 『色葉字類抄漢字索引（五）［五画］』（古字書索引叢刊・私家版）
1969.05 島田友啓 『色葉字類抄漢字索引（六）［六画］』（古字書索引叢刊・私家版）
1969.11 島田友啓 『色葉字類抄漢字索引（七）［七画］』（古字書索引叢刊・私家版）
1970.07 島田友啓 『色葉字類抄漢字索引（八）［八～十七画］』
（古字書索引叢刊・私家版）
1970.12 舩城俊太郎 変体漢文の「併」字（国語学 83）
1971.03 峰岸明 今昔物語集における漢字の用法に関する一試論〔一〕
—副詞の漢字表記を中心に—（国語学 84）
1971.04 小松英雄 第Ⅰ部第１章　前田家蔵・三巻本『色葉字類抄』における加点訓の分析　第Ⅰ部第３章９【補説】前田家蔵・三巻本『色葉字類抄』における部分加点訓の分布　第Ⅱ部第８章　三巻本『色葉字類抄』における「ヲ」「オ」の分布とその分析
＊初出 1966・1967（『日本声調史論考』／風間書房）

1971.05 島田友啓 『色葉字類抄倭訓索引（上）』（古字書索引叢刊・私家版）
1971.06 峰岸明 今昔物語集における漢字の用法に関する一試論〔二〕
—副詞の漢字表記を中心に—（国語学 85）
1971.09 吉田金彦 第七章　辞書の歴史５　歌学辞書と色葉字類抄
（『講座国語史第３巻　語彙史』／大修館書店）
1971.11 島田友啓 『色葉字類抄倭訓索引（中）』（古字書索引叢刊・私家版）
1972.02　項目：色葉字類抄（補訂版）（『国書総目録　第八巻』／岩波書店）
1972.03 藤田経世 伊呂波字類抄抄　解題（『校刊美術史料　寺院篇　上巻』
／中央公論美術出版）
1972.03 峰岸明 高山寺本古往来における漢字の用法について
（『高山寺本古往来表白集』／東京大学出版会）
1972.06 島田友啓 『色葉字類抄倭訓索引（下）』（古字書索引叢刊・私家版）
1973.06 築島裕 古辞書における意義分類の基準　五『色葉字類抄』の意義分類
（『品詞別日本文法講座 10　品詞論の周辺』／明治書院）
1973.06 島田友啓 『色葉字類抄仮名字音索引（一）』（古字書索引叢刊・私家版）
1973.09 川瀬一馬 室町中期写　世俗字類抄（七巻本）解説
（『世俗字類抄　七巻本　六冊』／雄松堂書店）
1973.12 島田友啓 『色葉字類抄仮名字音索引（二）』（古字書索引叢刊・私家版）
1974.06 島田友啓 『色葉字類抄仮名字音索引（三）』（古字書索引叢刊・私家版）
1974.09 渡辺実 〈資料紹介〉
『世俗字類抄』『掌中歴』『名数語彙』『消息詞・書状文字抄』（国語学 98）
1975.01 川瀬一馬 永禄八年寫色葉字類抄（二巻本）解説
（『色葉字類抄　二巻本　四冊』／雄松堂書店）
1975.02 島田友啓 『色葉字類抄仮名字音索引（四）』（古字書索引叢刊・私家版）
1975.07 山口明穂 古辞書の話３　色葉字類抄（日本古典文学会々報 29）
1975.10 島田友啓 『色葉字類抄仮名字音索引（五）』（古字書索引叢刊・私家版）
1976.03 舩城俊太郎 三巻本色葉字類抄につけられた朱の合点について
（二松学舎大学論集（50 年度））
1977.03 高橋宏幸 「マグル」考—「卒死」の訓読—（語学文学 15）
1977.05 川瀬一馬 室町初期写　伊呂波字類抄　十巻本　解説
（『伊呂波字類抄　十巻本　十冊』／雄松堂書店）
1977.05 川瀬一馬 一二　鎌倉初期写　伊呂波字類抄（原形本）
（『古辞書概説』／雄松堂書店）
1977.05 川瀬一馬 （略解説）（『色葉字類抄　一帖』／雄松堂書店）
1977.08 峰岸明 三巻本色葉字類抄解説
（『色葉字類抄研究並びに総合索引　黒川本・影印篇』／風間書房）

1977.08 中田祝夫・峰岸明 索引篇
（『色葉字類抄研究並びに総合索引　黒川本・影印篇』／風間書房）
1977.11 佐藤喜代治 色葉字類抄　伊呂波字類抄（『国語学研究事典』／明治書院）
1978.03 三宅ちぐさ 七巻本『世俗字類抄』にみられる出典注記（岡大国文論稿 6）
1978.03 木村晟 『伊呂波字類抄』三巻本から十巻本へ―本文篇（一）―（駒沢国文 15）
1978.07 吉見孝夫 国語研究史各説　増補　八　辞書・索引作成の歴史
（『増補　国語国文学研究史大成 15　国語学』／三省堂）
1978.12 大友信一 韻書の系譜（岡山大学法文学部学術紀要 39 文学）
1979.03 二戸麻砂彦 前田家本色葉字類抄音注攷（Ⅰ）―同音字注の考察―
（国語研究 42（国学院大学国語研究会））
1979.03 小林芳規 『三巻本色葉字類抄登載語の研究―用例集稿・「イ」之部―』（私家版）
1979.03 村田正英 前田家本色葉字類抄における訓の並記について（鎌倉時代語研究 2）
1979.03 木村晟 『伊呂波字類抄』三巻本から十巻本へ―本文篇（二）―（駒沢国文 16）
1980.03 高松政雄 呉音声調史上の一齣―色葉字類抄の声点―
（岐阜大学教育学部研究報告（人文科学）28）
1980.03 村田正英 前田家本色葉字類抄掲出漢字に並記された別訓の機能
（鎌倉時代語研究 3）
1980.09 峰岸明 項目：色葉字類抄（『国語学大辞典』／東京堂出版）
1980.10 峰岸明 『字鏡集』白河本の和訓に加えられた「正」注記の意義について
（訓点語と訓点資料 64）
1980.11 高松政雄 色葉字類抄の声点（訓点語と訓点資料 65）
1981.03 中村宗彦 『色葉字類抄』補訂試稿―文選出典訓を中心に―（大谷女子大国文 11）
1981.03 河野敏宏 ［発表要旨］大東急記念文庫蔵十巻本『伊呂波字類抄』の成立に
関する一考察―「植物」部「動物」部及び「諸社」部を中心として―（国語学 124）
1981.03 三宅ちぐさ 二巻本「世俗字類抄」の所収語彙
―二巻本及び三巻本「色葉字類抄」との比較から―（岡大国文論稿 9）
1981.03 木村晟 『伊呂波字類抄』三巻本から十巻本へ―本文篇（三）―（駒沢国文 18）
1981.07 峰岸明 記録語文における漢字表記語の解読方法について―『自筆本
御堂関白記』を例として―（『馬淵和夫博士退官記念国語学論集』／大修館書店）
1981.08 浅野敏彦 色葉字類抄「器量美人分」考（解釈 27-8）
1982.02 木村晟 『伊呂波字類抄』三巻本から十巻本へ―本文篇（四）―（駒沢国文 19）
1982.03 三宅ちぐさ 「いろは字類抄」における意義分類の変遷とゆれ（岡大国文論稿 10）
1982.03 高松政雄 前田家本色葉字類抄の声点について（岐阜大学国語国文学 15）
1982.03 山田俊雄 色葉字類抄畳字門の語の注「一詞」の意義（追加）
（成城国文学論集 14）
1982.05 村田正英 三巻本色葉字類抄における和名類聚抄和訓の受容（鎌倉時代語研究 5）

1983.03 原卓志 色葉字類抄における掲出語の増補について
—和名類聚抄との比較を通して—（国文学攷 97）
1983.08 高松政雄 和用法の字音語—色葉字類抄畳字部より—（訓点語と訓点資料 69）
1983.08 高松政雄 準漢語—字類抄畳字部中の「一詞」註記語より—
（訓点語と訓点資料 69）
1983.10 三宅ちぐさ 二巻本『世俗字類抄』仮名索引 —一—（東海学園国語国文 24）
1983.10 峰岸明 項目：色葉字類抄（『日本古典文学大辞典 第一巻』／岩波書店）
1983.12 中田祝夫・峰岸明他 項目：日本の古辞書（『古語大辞典』／小学館）
1984.03 三宅ちぐさ 二巻本『世俗字類抄』仮名索引 —二—（東海学園国語国文 25）
1984.04 峰岸明 項目：世俗字類抄（『日本古典文学大辞典 第三巻』／岩波書店）
1984.04 太田晶二郎 尊経閣三巻本色葉字類抄解説
（『尊経閣蔵三巻本色葉字類抄』／勉誠社）
1984.05 村田正英 色葉字類抄における和名類聚抄掲出語の受容
—特に「人体」部について—（鎌倉時代語研究 7）
1984.06 原卓志 色葉字類抄における和訓の増補とその表記形態（国文学攷 102）
1984.09 佐佐木隆 『類聚名義抄』『色葉字類抄』所引の『和名類聚抄』
（国語と国文学 61-9）
1984.09 峰岸明 字類抄の系譜（上）—人事・辞字両部所収語の検討を通して—
（国語国文 53-9）
1984.10 峰岸明 字類抄の系譜（中）—人事・辞字両部所収語の検討を通して—
（国語国文 53-10）
1984.10 三宅ちぐさ 二巻本『世俗字類抄』仮名索引 —三—（東海学園国語国文 26）
1984.11 峰岸明 字類抄の系譜（下）—人事・辞字両部所収語の検討を通して—
（国語国文 53-11）
1984.11 相坂一成 色葉字類抄の一語彙群 語彙表のＡ
（『古典の変容と新生』／明治書院）
1984.12 原卓志 色葉字類抄における類書の受容（広島大学文学部紀要 44）
1985.03 相坂一成 「色葉字類抄の一語彙群」語彙表のＢ（金沢大学国語国文 10）
1985.03 三宅ちぐさ 二巻本「世俗字類抄」仮名索引 —四—（東海学園国語国文 27）
1985.05 原卓志 色葉字類抄に於ける別名の性格
—古往来に於ける使用量と使用場面との分析を通して—（鎌倉時代語研究 8）
1985.06 峰岸明 解題 世俗字類抄二巻本
（『倭名類聚抄京本 世俗字類抄二巻本』／汲古書院）
1985.09 三宅ちぐさ 二巻本「世俗字類抄」仮名索引 —五—（東海学園国語国文 28）
1986.02 古屋彰 塵芥の依拠した一資料（金沢大学文学部論集（文学科篇）6）
1986.02 峰岸明 『平安時代古記録の国語学的研究』（東京大学出版会）

1986.03 二戸麻砂彦 前田家本色葉字類抄音注攷（Ⅱ）―反切音注の考察（上）―
（山梨県立女子短期大学紀要 19）
1986.03 三宅ちぐさ 二巻本「世俗字類抄」仮名索引　―六―（東海学園国語国文 29）
1986.05 佐藤喜代治 『色葉字類抄』続考略　第一（『国語論究』1／明治書院）
1986.11 土井洋一 学習院大学蔵　伊呂波字類抄　解題　索引
（『伊呂波字類抄』／汲古書院）
1986.12 峰岸明 『三巻本色葉字類抄』人事・辞字両部所収漢字の性格について（上）
（横浜国立大学人文紀要（語学・文学）33）
1986.12 三宅ちぐさ 二巻本『世俗字類抄』の同義異表記語（東海学園国語国文 30）
1987.02 古屋彰 いわゆる原形本色葉字類抄をめぐって
（金沢大学文学部論集（文学科篇）7）
1987.02 河野敏宏 十巻本『伊呂波字類抄』の位置付け（訓点語と訓点資料 76）
1987.03 二戸麻砂彦 前田家本色葉字類抄音注攷（Ⅱ）―反切音注の考察（下）―
（山梨県立女子短期大学紀要 20）
1987.04 川瀬一馬 室町初期写　伊呂波字類抄　十巻本　解説
（『十巻本　伊呂波字類抄　合本五冊』／雄松堂出版）
1987.07 三宅ちぐさ 「いろは字類抄」と『和名類聚抄』（東海学園女子短期大学紀要 22）
1987.09 三宅ちぐさ 二巻本「世俗字類抄」仮名索引　―七―（東海学園国語国文 32）
1987.10 峰岸明 『三巻本色葉字類抄』人事・辞字両部所収漢字の性格について（中）
（横浜国立大学人文紀要（語学・文学）34）
1987.10 峰岸明 『三巻本色葉字類抄』人事・辞字両部所収漢字の性格について（下）
（横浜国立大学人文紀要（語学・文学）34）
1987.11 三保忠夫 色葉字類抄畳字門語彙についての試論
―「闘乱部」語彙の場合―（国語語彙史の研究 8）
1987.12 三保忠夫 色葉字類抄畳字門語彙についての試論
―「闘乱部」語彙の場合（続）―（島根大学教育学部紀要（人文・社会科学）21）
1988.01 大熊久子 『十巻本伊呂波字類抄の研究』（鈴木真喜男）
1988.03 三宅ちぐさ 二巻本「世俗字類抄」仮名索引　―八―（東海学園国語国文 33）
1988.08 原卓志 三巻本色葉字類抄畳字部における「一名」注記について
（鎌倉時代語研究 11）
1988.11 三宅ちぐさ 二巻本「世俗字類抄」仮名索引　―九―（東海学園国語国文 34）
1989.03 三宅ちぐさ 二巻本「世俗字類抄」仮名索引　―十―（東海学園国語国文 35）
1989.03 齋木一馬 『古記録の研究　上』（吉川弘文館）
1989.09 佐藤喜代治 『本朝文粋』の和訓―『色葉字類抄』との関連において―
（文芸研究（東北大学）122）
1989.11 三宅ちぐさ 二巻本「世俗字類抄」仮名索引　―一一―（東海学園国語国文 36）

1990.03 三宅ちぐさ 二巻本「世俗字類抄」仮名索引　―一二―（東海学園国語国文 37）
1990.06 佐藤喜代治 『色葉字類抄』続考略第二（『国語論究』2／明治書院）
1990.10 三宅ちぐさ 二巻本「世俗字類抄」仮名索引　―一三―（東海学園国語国文 38）
1991.03 三宅ちぐさ 二巻本「世俗字類抄」仮名索引　―一四―（東海学園国語国文 39）
1991.08 三宅ちぐさ 掲出順位・俗注記等からみた二巻本『世俗字類抄』の同義異表記語
（『辞書・外国資料による日本語研究』／和泉書院）
1991.10 佐藤喜代治 『色葉字類抄』続考略第三（『国語論究』3／明治書院）
1992.03 兪鳴蒙 色葉字類抄地儀用語の漢字作用―三巻本を中心に―
（甲南女子大学大学院論叢 14）
1992.08 太田晶二郎 尊経閣　三巻本　色葉字類抄　解説（『太田晶二郎著作集　第四冊』）
1992.10 川瀬一馬 色葉字類抄（節用文字）
（『お茶の水図書館　新修成簣堂文庫善本書目』／石川文化事業財団　お茶の水図書館）
1993.02 三宅ちぐさ 七巻本『世俗字類抄』仮名索引（1）（就実論叢 22）
1993.02 兪鳴蒙 色葉字類抄天象用語の漢字用法―仮用用法を中心に―
（摂大学術（人文科学・社会科学編）11）
1994.02 三宅ちぐさ 七巻本『世俗字類抄』仮名索引（2）（就実論叢 23）
1994.02 兪鳴蒙 三巻本色葉字類抄の反切注と出典（その 1）（摂大人文科学 1）
1994.03 田島優 いろは（色葉・伊呂波）字類抄畳字門の重掲出語について
（東海学園国語国文 45）
1995.02 三宅ちぐさ 七巻本『世俗字類抄』仮名索引（3）（就実論叢 24）
1995.03 高橋久子 真名本伊勢物語と三巻本色葉字類抄（学芸国語国文学 27）
1995.03 佐藤喜代治 『『色葉字類抄』（巻上）略注』（明治書院）
1995.04 佐藤喜代治 『『色葉字類抄』（巻中）略注』（明治書院）
1995.05 江口泰生 第二節　鎌倉時代の辞書
（『日本古辞書を学ぶ人のために』／世界思想社）
1995.05 乾善彦 十三　色葉字類抄・伊呂波字類抄
（『日本古辞書を学ぶ人のために』／世界思想社）
1995.06 梅崎光 色葉字類抄の声点小考（語文研究 79）
1995.07 佐藤喜代治 『『色葉字類抄』（巻下）略注』（明治書院）
1995.07 佐藤喜代治 〈講演〉『色葉字類抄』を読む（新村出記念財団報 9）
1995.08 藤田夏紀 前田本『色葉字類抄』と黒川本『色葉字類抄』の
漢字字体の差異について―伊部の漢字―（鎌倉時代語研究 18）
1996.02 三宅ちぐさ 七巻本『世俗字類抄』仮名索引（4）（就実論叢 25）
1996.05 金子彰 色葉字類抄・伊呂波字類抄　世俗字類抄　節用文字
（『日本辞書辞典』／おうふう）
1997.02 三宅ちぐさ 七巻本『世俗字類抄』仮名索引 5-1（就実論叢 26）

1997.03 日下薫 七巻本世俗字類抄の注記について（東京女子大学日本文学 87）
1997.09 小野正弘 本のはなし　第十六回　色葉字類抄（新日本古典文学大系（月報））
1998.02 三宅ちぐさ 七巻本『世俗字類抄』仮名索引 5-2（就実論叢 27）
1998.08 三宅ちぐさ 索引篇　研究篇
（『天理大学附属天理図書館蔵世俗字類抄影印並びに研究・索引』／翰林書房）
1998.12 三宅ちぐさ 二巻本『世俗字類抄』―天理本・東大本の異同とその関係―
（就実語文 19）
1999.01 峰岸明 尊経閣文庫所蔵『色葉字類抄』三巻本解説
（『色葉字類抄　一　三巻本』／八木書店）
1999.02 三宅ちぐさ 七巻本『世俗字類抄』仮名索引（6）（就実論叢 28）
1999.03 河野敏宏 〈書評〉大友信一監修三宅ちぐさ編著「天理大学附属天理図書館蔵
世俗字類抄　影印ならびに研究・索引」（岡大国文論稿 27）
1999.07 小川知子 節用文字と字類抄諸本の系譜（国語国文研究 112）
1999.12 三宅ちぐさ 「いろは字類抄」と『新撰字鏡』の関わり
―重点・畳字（連字）の場合―（就実語文 20）
2000.01 峰岸明 尊経閣文庫所蔵『色葉字類抄』二巻本解説
（『色葉字類抄　二　二巻本』／八木書店）
2000.02 三宅ちぐさ 七巻本『世俗字類抄』仮名索引（7）（就実論叢 29）
2000.02 高橋忠彦・高橋久子 七巻本世俗字類抄の補綴資料
（東京学芸大学紀要（人文科学）51）
2000.05 佐藤喜代治 和刻本『漢書』の和訓―『色葉字類抄』との関連において（玉藻 36）
2000.09 高橋久子 『色葉字類抄』の価値（日本語学 228）
2000.11 佐藤喜代治 和刻本『漢書』の和訓　続考―『色葉字類抄』との関連において
（『国語論究』8／明治書院）
2000.12 山本秀人 改編本類聚名義抄における
増補された和訓の色葉字類抄との関係について（高知大国文 31）
2000.12 辻星児 「二中歴」「世俗字類抄」所引の朝鮮語数詞について
（岡山大学言語学論叢 8）
2001.02 三宅ちぐさ 七巻本『世俗字類抄』仮名索引（8）（就実論叢 30）
2001.03 二戸麻砂彦 二巻本世俗字類抄反切音注考（山梨県立女子短期大学紀要 34）
2001.03 三宅ちぐさ 「いろは字類抄」と『新撰字鏡』の関わり―臨時雑要字の場合
（高野山大学国語国文 23～26）
2001.03 町田亙 『色葉字類抄』重点部の語彙　字類抄系統諸本間の相違について
（立教大学日本語研究 8）
2001.11 二戸麻砂彦 字類抄諸本の改編と反切音注（国学院雑誌 102-11）
2001.12 町田亙 『色葉字類抄』所収語に関する一試論―三巻本重点部の語彙を中心に―

（立教大学日本文学 87）
2002.02 三宅ちぐさ 七巻本『世俗字類抄』仮名索引（9）（就実論叢 31）
2002.04 村井宏栄 『色葉字類抄』重点門の項目化
（名古屋大学日本語学研究室（過去・現在・未来））
2003.02 三宅ちぐさ 七巻本『世俗字類抄』仮名索引（10）（就実論叢 32）
2003.03 小川知子 ［博士論文（北海道大学大学院文学研究科）］
字類抄諸本の系統的関係（北海道大学）
2003.03 高橋久子 花山院本伊呂波字類抄の価値（国語語彙史の研究 22）
2003.07 村井宏栄 三巻本『色葉字類抄』畳字門「同」注記の表示法
（名古屋大学国語国文学 92）
2004.02 三宅ちぐさ 七巻本『世俗字類抄』仮名索引（11）（就実論叢 33）
2004.03 斎藤平 古辞書における「カケマクモ」について（皇学館大学神道研究所紀要 20）
2005.02 三宅ちぐさ 七巻本『世俗字類抄』仮名索引（12）（就実論叢 34）
2005.09 村井宏栄 三巻本色葉字類抄「同」注記類の表示法（訓点語と訓点資料 115）
2005.12 三宅ちぐさ 七巻本『世俗字類抄』に掲載された画人（就実語文 26）
2006.01 高橋忠彦・高橋久子『日本の古辞書 序文・跋文を読む』（大修館書店）
2006.03 三宅ちぐさ 七巻本『世俗字類抄』仮名索引（13）（就実論叢 35）
2006.03 佐々木勇 改編本『類聚名義抄』と三巻本『色葉字類抄』の漢音
（訓点語と訓点資料 116）
2006.12 三宅ちぐさ 七巻本『世俗字類抄』に掲載された画人（補）（就実表現文化 1）
2007.03 三宅ちぐさ 七巻本『世俗字類抄』仮名索引（14）（就実論叢 36）
2007.10 舩城俊太郎 白氏文集と色葉字類抄（人文科学研究 121）
2007.12 萩原義雄 『色葉字類抄』が典拠とした往来物
―『東山往来』の語彙を中心に比較検証―（駒澤日本文化 1）
2008.02 三宅ちぐさ 七巻本『世俗字類抄』仮名索引（15）（就実論叢 37）
2008.03 二戸麻砂彦 二巻本色葉字類抄の同音字注（山梨国際研究 3）
2008.03 藤本灯 三巻本『色葉字類抄』に収録された長畳字の性質について（1）
（日本語学論集 4）
2008.03 村越仁美 世俗字類抄の語彙について―植物部を中心に―（日本文学 104）
2009.02 三宅ちぐさ 七巻本『世俗字類抄』仮名索引（16）（就実論叢 38）
2009.03 藤本灯 三巻本『色葉字類抄』に収録された長畳字の性質について（2）
（日本語学論集 5）
2009.03 二戸麻砂彦 二巻本世俗字類抄の音注「如音」（山梨国際研究 4）
2009.09 舩城俊太郎 三巻本色葉字類抄に見いだされる唐時代の白話語の熟語
―白氏文集からのそれを中心にして―（人文科学研究 125（新潟大学））
2010.01 三宅ちぐさ 七巻本『世俗字類抄』に増補された「国郡」門の語彙

（就実表現文化 4）
2010.02 三宅ちぐさ 七巻本『世俗字類抄』仮名索引（17・了）（就実論叢 39）
2010.03 二戸麻砂彦 鎌倉初期書写色葉字類抄の音注（山梨国際研究 5）
2010.03 藤本灯 三巻本『色葉字類抄』畳字部の性格―訓読の語について―
（日本語学論集 6）
2010.03 藤本灯 三巻本『色葉字類抄』畳字部に収録された訓読の語の性質
（訓点語と訓点資料 124）
2010.12 萩原義雄 『作庭記』の語彙について
―古辞書三巻本『色葉字類抄』所載語を対象に―（駒澤日本文化 4）
2011.02 舩城俊太郎 『院政時代文章様式史論考』（勉誠出版）
2011.03 藤本灯 三巻本『色葉字類抄』重点部の研究（日本語学論集 7）
2012.01 村井宏栄 三巻本『色葉字類抄』における「作」注記について
（日本語の研究 8-4）
2012.03 藤本灯 先行国書と三巻本『色葉字類抄』の関係
―『和名類聚抄』を中心として―（日本語学論集 8）
2013.02 藤本灯 三巻本『色葉字類抄』と『和名類聚抄』の関係―『式』注記を通して―
（国語と国文学 90-2）
2013.03 藤本灯 三巻本『色葉字類抄』仏法部の研究―用例を中心に―（日本語学論集 9）
2013.03 藤本灯 字音から見た三巻本『色葉字類抄』「仏法部」の性質
（訓点語と訓点資料 130）
2013.05 吉田金彦 『古辞書と国語』（臨川書店）
2013.05 高橋忠彦・高橋久子 字類抄畳字部所収語彙の位相と諸本の系統
（日本語と辞書 18）

論文の内容の要旨

論文題目　『色葉字類抄』の研究
氏名　藤本　灯

本論文は、平安時代院政期に橘忠兼（伝未詳）により編纂されたイロハ引きの国語辞書『色葉字類抄』（字類抄）の研究である。本稿では収録語彙の性格、他文献との影響関係、字音資料としての価値、字類抄伝本の書誌といった点について調査、検討を行い、本書の研究に従来欠けていた多角的な視点から本書の性質を捉え直すことを試みた。

第一章「目的と方法」では、本研究の方法や目的、先行研究に言及した。本論を通して、平安・鎌倉時代の他文献を比較の対象とすることで、客観的に本書を位置付けることを目指した。

第二・三章「『色葉字類抄』収録語彙の性格（一）（二）」では、本書に収録された語彙の性格を明らかにするため、字類抄中最も大部でかつ前時代の辞書の部門にはなかった畳字（二字以上の熟語）部の語彙の実態調査を行った。

まず、イ篇（イで始まる単語を集めた篇）畳字部語彙の、院政期を中心とする本邦の著作物での用例を調査したところ、畳字部語彙の少なくとも約七割は、当時において書記的需要のあった語であることが判明した。古記録、漢詩文、説話集等に各々特有の語彙が含まれるが、横断的に用いられた汎用性の高い語群も見出された。

二点目に、畳字部訓読語を概観したところ、別の音訓によって複数の箇所に掲出された語は、そうでない語に比べて用例が出やすい傾向にあった。重複掲出語が、より頻繁に、広範囲に使用された語であり、またそのような理由から複数の音や意味（訓）での検索が可能になるように配置されたものであると推測される。更に、字類抄諸本のうち、特に三巻本字類抄で新たに「～哉」等の形式を持つ句の一類が追加されたことは、往来物や願文、また和漢混淆文のような素地を持つ文における書記的需要が高まっていたためであろう。従来の研究では「文選読み」（一つの漢語を音読した後重ねて訓読する方法）や『類聚名義抄』（名義抄）との重複を以て非日常的な要素であるとも概括されていたが、名義抄との重複が、字類抄の複数の表記の中でより当時一般的に用いられた表記であることを考えると、名義抄との比較によって一概に訓読語の性格を非日常的な語と位置付けることは適当ではなかったと言える。従来、畳字部訓読語については、主に上記のような異質な部分（漢文訓読的要素）が注目されていたため、それ以外の普通の語の存在が忘れられがちであったが、日常的に用いられ、それゆえに畳字部に収載されたと思われる語も相当数存在していることが明らかとなった。畳字部訓読語彙は雑多な語の集合でありつつも、辞書の利用という面から見れば、当時の書記上の需要を備えた語を十分に含む語群であったということになるであろう。

三点目に、畳字部長畳字（三字以上の熟語）の用例調査を行ったところ、『今昔物語集』に現れた語が字類抄一九五語中二三語を占め、またその中には『今昔物語集』のみに現れたものもあった。更に、説話や仏教関係書に出現するが、古記録等には頻繁に用いられない語群もあった。一方で、漢籍である『白氏文集』に出現する「反魂香」のような語であっても説話集の『続古事談』に見られるようなこともあり、編纂者が、正格の漢文であることが求められるような高度な文章を離れて使用される可能性のある語と認識していたものも、少なからず含まれた語群であったと考えられる。一般に「記録語」と定義され得るような語でも、字類抄成立の頃には、記録・往来・文書類を書記する以外の一般の場所でも用いられつつあったと考えることの出来る語もある。すなわち、従来の認識のように「記録語＝字類抄の語彙」とするには、あまりに多くの、古記録語彙とは位相の異なる、あるいは汎用性の高い（和漢混淆文や仏教関係書に頻繁に用いられる）語群が『色葉字類抄』には収められていたことが判明したのである。

第四章「『色葉字類抄』と他文献との関連」では、字類抄とその前後に成立した文献との関係について述べた。まず、従来もその関係が度々指摘されてきた『和名類聚抄』（和名抄）については、新たに以下のような摂取状況が明らかとなった。

・和名抄巻一三　図絵具・巻一四　染色具　→字類抄　光彩部へ

・和名抄巻一五　膠漆具　→字類抄　雑物部へ

また、字類抄中で「式」出典名を有する項目は『延喜式』本体にも見えるが、和名抄を介さず、直接あるいは別書を通して字類抄に採録されたものであることが判明した。一方で、「本朝式」出典名を有する項目は、和名抄からの孫引きであること、更に、字類抄の国郡部は、『延喜式』巻二二民部上ではなく、二〇巻本和名抄巻五国郡部を参照して編纂されたことを確認した。

次に、特徴的な語を有する部（重点部・名字部）と字類抄前後の辞書とを比較、検討した。

まず、重点部（「一々」等の畳語）について他辞書の重点部との比較と用例調査を行った結果、後世の『節用集』類とは異なる、字類抄に特有の性質の部であることが判明した。すなわち本書では、『節用集』にもあるような、日常的に用いられる平易な語の収録が見られる一方で、やはり漢詩文特有の語等、記録語以外の性質のものも少なからず保存される状況が確認されたのである。このことは、重点部語彙という特殊な語群が、正格漢文という枠組みを越え、和化漢文や和漢混淆文において使用されることも前提としていたことを示唆しているのであろうと考えられる。

次に、名字部（「則　ノリ」等）について排列の面を中心に調査を行ったが、字類抄中の他部（辞字部等の名字部と構造が似通った部）や他書（『掌中歴』）の排列とは無関係であり、また特定の家（藤原家等）に使用される字に偏ったような収録状況も窺うことは出来なかった。ただし排列の傾向として、上位字は一般的に漢字と訓の結び付きが強く、辞字部等他部に当該訓（あるいは用言の終止形）が収録されたり現行の「古代人名辞典」

の類でも大部分を占めるような読み方、下位字は結び付きが特殊でそれらの辞典でも確認されないものが多かった。

第四章における調査・検討の結果を先行研究と併せて述べれば次のようになる。①字類抄は、二〇巻本和名抄の影響を受けており、その内容の殆どを引用踏襲している（『延喜式』など、和名抄を介して採られる例もある）。②字類抄と名義抄との影響関係は、一方的に字類抄→改編本名義抄の関係であったと考えられる。③『文鳳抄』以下後世の辞書類については、三巻本字類抄から直接影響を受けたものではないと考えられるものもあるが、字類抄からの流れを汲む辞書類であると言える。これらの書物が広く流布していたことは、字類抄が間接的にも後世の国語辞書類に与えた影響の大きさを物語るものである。④字類抄がイロハ引きを採用した初の辞書であるかという点について、『掌中歴』や『多羅葉記』等との前後関係が明らかにならなければ確実なことは言えないが、本書が、国語辞書がイロハ引きを採用した最初期の例であることは間違いない。また『掌中歴』と字類抄の先後関係については、従来言われるように『掌中歴』→字類抄という一方的な関係ではないことが判った。

第五章「国語資料としての『色葉字類抄』」では、呉音が付されることが期待される畳字部仏法部語彙（仏教関係の語群）の音注を分析し、また補足的な用例調査によって、国語資料としての『色葉字類抄』の価値を再検討した。

まず音注調査の結果、字類抄仏法部内には、漢音系の声調／漢音形の仮名音注を持つ語があるが、特に仮名音注に関しては、当時の仏典以外の典籍で読まれる中で、そのような形に定着した蓋然性が高いものを採録したものであったものと結論付けた。この結果は、従来の指摘とは異なる面を示すものである。すなわち加点者が、従来の指摘通り漢音系の語を殆ど中国の韻書に依拠して付したものとは別に、仏教語については当代に日本で使用された語形を示そうとした仮名音注例が散見されたのである（声点については誤点と考えられるものも少なくなかった）。

また仏法部語彙の用例調査では、古記録等の実用的な文章を記す目的のための語というよりは、仏教説話等に用いられ、庶民にも通じる程度の難度の語が多く収録されていた事実が浮き彫りとなった。『今昔物語集』が仏法部語彙の六四％をカバーしていることからも、その多くは和漢混淆文のような素地の文章にも用いられることを期待されたものであったであろうことが前章に引き続き確認された。

本章までの調査検討を元に、字類抄の価値を捉え直せば、以下の点が新たに付与出来る。

・本書には、当時の姿を反映した仮名音注が存する。

・本書は、記録語や古い要素を持つ漢文訓読語のみならず、和漢混淆文の用語を始めとする雑多な性質の語句を収める。

第六章「字類抄諸伝本」では、『いろは字類抄』（『節用文字』、『色葉字類抄』、『世俗字類抄』、『伊呂波字類抄』の総称）の伝本について、『国書総目録』に示された

写本の所蔵機関を含め、広範囲に亘って調査を行った。本稿では基本的な書誌調査の結果、及び『国書総目録』に掲載された情報の訂正（現在の所蔵状況）を報告したが、その写本の多くが非常に良好な状態で残存していることが確認され、このことは今後の伝本研究の基礎作業となり得たものと考える。

終章では以下のように結論付けた。

現在、日本語学の世界では『色葉字類抄』の内容に関する研究は一段落した感があるが、本論文では、先行研究がなお批判され、再検討されるべき対象であることを明確に指摘することが出来たと考える。特に、『色葉字類抄』に収載された語が全て公家日記などに使用される記録語であるという従来の認識は明白に誤りであり、本書に掲載された語はより広範な基盤から収集されたものであることを証明することが出来た。

（3963 字）